二〇 東山時代ノ工藝

一 陶器

イ 伊勢ノ人祥瑞（ションズイ）五郎太夫、明ニ起キテ製陶ノ法ヲ學ビ、肥前ノ地ニ於テ製陶ス。之ヲ唐津燒ノ祖トス。

ロ 加藤四郎左衛門景正、既ニ鎌倉時代支那ヨリ陶器ヲ傳ヘテ之ヲ製ス。瀨戸燒是ナリ。

二 武具 戰亂ノ爲ニ武具製造ノ技ノ精妙ニ至リ、兜ヲ造ルニ巧ナル妙珍信家ヲ出ス。

二一 足利時代ノ新文學

一 謠曲 無常ノ觀念ヲ表示シ、僧侶ノ作ニシテ一休、正徹等之ヲ作ル。

二 狂歌 和歌ニ代リテ新ニ起リ、稍卑俗ノ格調ヲ帶ブ。

三 俳句 連歌ノ變ジタルモノ、十七文字ヲ以テ思想ヲ表示ス。

二二 足利時代ノ文學

一 漢文ノ廢退 南北朝以後、漢學ノ衰頽著シ。後花園天皇ノ永享十一年、上杉憲眞、下野足利學校ヲ修補シ、書籍ヲ入レ、土田ヲ耕シ、僧元ナシテ生徒ヲ養成セシム。漢學ノ此外ニ聞ユルモノナシ。

二 和歌 戰亂ノ中ニアルモ衰ヘズ。將軍義尙、太田道灌ノ如シ。

三 國學 南北朝ノ末ニアリテ小嶋法師ノ太平記、卜部兼好ノ徒然草アリ。

四 連歌ハ中流以上ニ行ハル。

五 謠曲、狂歌、俳句ハ新ニ起ル。

三 足利時代ノ風俗

一 茶宴 將軍義政、世慮ヲ散ゼンガ爲、茶宴ヲ設ケ、茶人周光等、創意ニ依リテ其式ヲ作リ、武人ノ娛樂トナル。

二 家屋 室町時代ニ至リ、上下皆明ノ制ニ倣ヒテ建築シ、二階造モ此頃ヨリ始マル。

三 衣服 袂袍ノ袖ヲ斷チ、袴ノ裾ヲ切リテ袴下トナル。十德モ此頃ヨリアリ

四 頭髮 月代ノ風世ニ弘マリ、剃ル部分モ廣大トナレリ。

一二 豐臣氏時代

正親町天皇

一 三形ヶ原ノ戰

由來 信長ト洛シ、家康ヲシテ武田氏ヲ謀ラシム。家康、上杉景虎ト約シ、之ヲ擊タシムトス。

二 經過 元龜三年四月、景虎兵ヲ信濃ニ出シ、家康ヲ救フ。十二月、信玄自カラ兵ヲ率ヒテ三形ヶ原ニ陳シ、人ヲ遣ハシテ濱松城ヲ攻メシム。信玄衆ヲ設ケ、家康ヲ城外ニ誘出シ、之ヲ包圍シテ攻ム。家康僅ニ身ヲ以テ遁レテ

城中ニ入ル。

二 武田氏ノ末路　元亀四年信玄卒ス。子勝頼嗣ク。天正二年、勝頼兵ヲ率ヰテ、遠江ヲ浸シ、徳川氏ノ諸城ヲ降ス。明年家康織田氏ト兵ヲ合セ、勝頼ト長篠ニ戰フ。勝頼大敗、甲斐ノ宿將多ク敗死ス。同十年、信長、長子長忠及ビ家康ト共ニ大舉シテ勝頼ヲ甲斐ニ攻ム。勝頼遁レテ天目山ニ入リテ戰死フ。

三 本能寺ノ變

一 原因　明智光秀、屢々信長ニ罵リ辱メラレ、怨ヲ含ム。信長、森蘭丸ヲ愛シ、光秀ノ所領、近江滋賀郡ヲ與ヘンコトヲ約ス。光秀遂ニ害心ヲ懷リ。

二 經過　信長羽柴秀吉ヲシテ中國ヲ經營セシム。秀吉姫路ニ築キ、伯耆、備前、美作ヲ略シ、進ンテ高松城（備中）ヲ攻ム。毛利輝元ハ吉川元春、小早川隆景等ト來援ス。秀吉援ヲ信長ニ請フ。信長其請ヲ入レ、近畿ノ兵ヲ發セントシ、光秀ニ其援兵ヲ命ズ。光秀丹波ニ在リ。兵ヲ發シテ東ス。黎明京師ニ入リテ本能寺ヲ襲フ。

三 結果　信長力戰シテ自殺シ、長子長忠、二條城ニ圍マレテ亦自殺ス。時ニ天正十年ナリ。

五 山崎ノ戰　本能寺ノ變報、秀吉ニ達スルヤ、秀吉ハ輝元等ト和シ、兵ヲ回シテ東シ、丹波長秀等ノ諸將ト軍ヲ合セ、光秀ト天王山ニ戰ヒテ破ル。光

二遁レテ小栗栖ニ至ル。土兵之ヲ殺ス。

五 賤ヶ岳ノ戰

一 原因 秀滅亡後、秀吉、信長ノ嫡孫三法師ヲ嗣トセントス。諸將或ハ信雄、又ハ信孝ヲ推ス。然レドモ三法師嗣トナリ、信雄、信孝後見トナリ、秀吉、勝家事ヲ執ル。勝家、秀吉ノ威望ヲ嫉ミテ除カントス。會々信孝、信雄ト和セズ。故ニ信雄及ビ秀吉ヲ殺サントス。勝家之ニ與シ、濃川一益ト共ニ信孝ニ黨シテ兵ヲ擧ゲ。

二 結果 秀吉兵ヲ遣ハシ、一益ヲ岐阜ニ、勝家ヲ越前ニ攻メシム。又、自カラ信孝ヲ岐阜ニ圍ム。會々越前ニ敗ルヽヲ聞キ、星驅シテ勝家ノ將佐久間盛政ヲ賤

ケ岳ニ攻メテ之ヲ殺シ、更ニ進テ勝家ヲ北ノ庄ニ圍ム。勝家自殺ス。(此役加藤清正、福嶋正則、片桐勝元等ノ七將、長槍ヲ揮フテ功アリ。所謂賤ヶ岳ノ七槍是ナリ)。

六 小牧ノ役

一 原因 織田信雄、秀吉ノ威名ヲ嫉ミテ之ヲ除カントコトヲ圖ル。

二 結果 援ヲ德川家康ニ請フ。家康之ヲ諾シ、兵ヲ率ヰテ小牧山ニ陣ス。秀吉、三河ノ虛ヲ衝カントコトヲ欲シ、池田輝政、森可成等ヲ遣ハス。家康長久手ニ迎ヘテ戰ヒ、輝政ノ軍ヲ破ル。秀吉報ヲ得テ赴ク。家康既ニ小幡城ニ入ル。和ヲ講ジテ止ム。

七　四國平定　天正十三年四月、秀吉、羽柴秀長、秀次等ヲシテ長曾我部元親ヲ土佐ニ討タシム。元親降リテ四國平定ス。

二　後陽成天皇

八　島津氏征討九州平定　九州ニハ大友、龍造寺、嶋津ノ三氏アリ。大友、龍造寺二氏相次デ衰ヘ、嶋津氏獨リ盛ナリ。天正十五年、秀吉自カラ軍ヲ率ヰテ西征シ、薩摩ニ入ル。義久敗レ、薙髪シテ降ヲ請フ。依テ薩、日、隅ノ三國ヲ與ヘ、其他ヲ奪フ。

九　北條氏征討小田原平定　秀吉關白トナル。時ニ唯關東ノ北條氏從ハズ。秀吉使ヲ遣ハシテ上洛ヲ促ス。氏政狐疑シテ應セズ。秀吉天正十八年、

自カラ大軍ヲ率ヰテ小田原ヲ圍ム。氏政自殺シ、一族皆降ル。

一〇　東北ノ鎮定　東北ノ諸豪伊達政宗、南部、秋田等相次デ秀吉ニ降リ、應仁以來ノ兵亂茲ニ始メテ止ム。

二　朝鮮征伐

一　目的　海内既ニ統一シ、明ヲ征服セントス。先ヅ意ヲ朝鮮ニ通ジテ道ヲ借リ其嚮導タラシメントス。朝鮮國王李昭、明ヲ懼レテ從ハズ。依テ先ヅ朝鮮ヲ取リテ明ニ及バントス。

二　準備　關白ヲ養子秀次ニ讓リ、自カラ太閤ト稱ス。文祿元年、軍營ヲ肥前

名護屋ニ置キ、自ラ之ニ居リテ軍事ヲ指揮ス。

三、文祿ノ役

一、部署　一：總大將、浮田秀家。二：陸軍ノ先鋒、加藤清正、小西行長、三：水軍ノ將、九鬼義隆、藤堂高虎、加藤嘉明。四：總軍十五萬。

二、戰況

○イ、我軍海陸道ヲ別テ進ム。沿道ノ諸城風ヲ望デ潰エ、王城ヲ蹈ル。國王李昭義州ニ走リ、明ニ援ヲ請フ。行長平壤ヲ破リ、淸正咸鏡道ニ入リテ、二王子ヲ擒ニス。

ロ、我軍八道ヲ席卷シ、進テ明ニ入ラントス。明主神宗、援軍ヲ出ス。行長

ハ、明將李如松、大軍ヲ以テ行長ヲ襲フ。行長王城ニ遁ル。小早川隆景、立花宗茂、黑田長政、毛利長政等ト碧蹄館ニ戰ウテ明軍ヲ破ル。

ニ、結果　明主我軍ノ威ニ恐レ、和ヲ請フ、時ニ我將士亦戰ニ倦ム。即チ七事ヲ約シテ和議ス。

四、慶長ノ役

一、原因　秀吉、明使ト豫メ七事ヲ約シテ和議ヲ講ズ。中ニ朝鮮ヲ我ニ割讓スル事アリ。沈惟敬中間ニアリテ、之ヲ變更シ、秀吉ヲ日本國王ニ封ズルコトニ改ム。而シテ長元年、惟敬歸來ル。秀吉、伏見城ニ明使ヲ見ル。國書ヲ見ルニ國王

封スルノ條アリ。秀吉大ニ憤リ。明ノ無禮ヲ攻メ、即時再ビ朝鮮征伐ノ事ヲ令ス。

二 部署

一、總大將小早川秀秋。 二、副將毛利秀元、浮田秀家。 三、參謀黑田孝高。 四、水陸先鋒舊ノ如シ。 五、總軍十四萬人。

三 戰況 我軍朝鮮ニ入リ、加藤清正蔚山ニ居ル。明軍全力ヲ擧ゲテ圍ム。城中食盡キ、馬ヲ殺シテ食フ。寒天雪ヲ降シ、將士指ヲ墮スニ至ル。淺野幸長ト共ニ守ル。我諸將來リテ內外夾擊、大ニ明軍ヲ破ル。

四 結果 慶長三年八月、秀吉病デ薨ズ。在韓ノ軍凱旋ス。

二 秀吉ノ政治

一 五大老 大事ヲ議決セシムル爲ニ設ク。

二 五奉行 政務ヲ管セシムル爲ニ設ク。然レドモ重ニ京攝ノ寺社市民ヲ管スルノミ。諸國ハ武人ノ所領ニシテ各其臣民ヲ撫馭成敗スルヲ以テ、一定ノ制度ナシ。

三 貨幣 慶長中大判小判ヲ鑄造シテ貨幣ヲ一定ス。

四 量制 舊來ノモノヲ改正シ、全國田地ノ石高ヲ定ム。枡ハ直徑四寸九分、深サ二寸七分。

五 租法 收穫ノ三分ノ二ヲ上納セシム。

一六 石制（コク） 錢貫ヲ稱スルヲ止メ、萬千百十石ヲ用ヒシム。

二三 豐臣氏時代ノ美術

一 繪畫 狩野古法眼元信ハ、前代ニ殁セシガ、其子松榮當時ニ名アリ。

二 彫刻 彫工宗貞法印、宗印法眼等最モ精巧ヲ以テ稱セラル。

三 陶器 朝鮮ノ役後、諸將彼地ノ陶工ヲ携ヘ來リテ領内ニ製造ス。陶器ノ進歩發達著大ナリ。

一四 耶蘇教ノ嚴禁 信長害セラレタル後、耶蘇教ノ徒、秀吉ニ取入ラントセシガ、秀吉嘗テ無禮ヲ加ヘシヲ憤リ、天正十四年、其教師ヲ放逐シ、嚴禁ノ令ヲ下ス。

一五 秀吉ノ建築

一 方廣寺 秀吉諸侯ニ課シ、東山ニ釋迦ノ大像ヲ造ル。佛殿ノ高二十丈。

二 聚樂第 京都ニ建テ、行幸ヲ仰ギ、玉座ノ前ニ於テ、諸將忠誠ノ盟約ヲナサシム。

三 大坂城。 四 伏見桃山御殿。

一六 天主閣ノ創始

一 丹貴城 松永久秀ノ築造スル所ニシテ、始メテ天主閣ヲ建ツ。久秀耶蘇教ヲ信ジタルヲ以テ、天主ヲ樂ラント欲シテ造ル。

二 安土城 織田信長、志貴城ニ敵キ、壮大ナル天主閣ヲ建ツ。

三　大坂城　秀吉亦志貴、安土ニ城ニ倣ヒテ、壯大ナル天主閣ヲ造ル。

一七　方廣寺鐘名事蹟

一　由來　秀吉薨ズルニ及ビ、遺命シテ政務ヲ家康ニ托シ、秀賴長ズルニ及ンデ、之ヲ返サシメンコトヲ約ス。秀賴長ズルモ之ヲ返サズ。却テ機ヲ見テ豐臣氏ヲ滅ボサントス。

二　事實構造　慶長元年、方廣寺ノ大佛地震ノ爲ニ破壞セラル。大佛ハ秀吉ノ築ク處。家康、秀賴ニ勸メテ再建セシム。蓋シ秀吉大坂城ヲ築クニ當リ、黃金ノ法馬數十ヲ鑄造シ、豫メ慮ル變ニ備フ。家康知レルヲ以テ、工事ヲ起シテ矢ハシメストス。秀賴之ヲ以テ大佛ヲ鑄造ス。慶長十九年四月落成シ、秀

賴供養ノ式ヲ擧ゲントス、銘鐘ニ國家安康ノ句アリ。家康已ヲ呪詛スルモノトナシ、其式ヲ止メシム。片桐且元陳辯スレドモ聽カズ。却テ淀君ト且元ヲ離間ス。此鐘銘ハ家康、僧ニ命シテ作ラシメタリ。

一八　關ヶ原ノ戰

一　原因　秀吉薨ズルニ臨ミ、遺命シテ前田利家ヲシテ秀賴ヲ輔佐セシメ、家康ヲシテ政事ヲ執ラシム。秀賴僅ニ七歲、母ト共ニ大坂城ニ居ル。利家薨シ、家康獨リ威望アリ。石田三成、家康ノ豐臣氏ヲ害セシンコトヲ慮リテ、之ヲ除カントス。

二　準備

イ 三成、上杉景勝ト謀リ、東西兵ヲ起シテ家康ヲ討タントシ、毛利輝元、浮田秀家、大谷嘉隆、小西行長、嶋津義弘等之ニ黨ス。

ロ 慶長四年、景勝會津ニ歸リ兵ヲ擧ゲテ家康ニ抗ス。家康、鳥居忠元ヲ伏見城ニ留メ、自カラ大軍ヲ率ヰテ景勝ヲ攻ム。毛利輝元、盟主ト仰ガレシ、先ヅ伏見城ヲ攻ム。忠元力戰シテ死ス。

ハ 三成等大坂ニ會シ、

三 戰況一進一退シテ美濃ニ入ル。家康變ヲ聞キ、結城秀康ヲシテ景勝ニ備ヘシメ、自カラ西上シテ關ヶ原ニ於テ戰フ。勝敗未ダ決セズ。小早川秀秋、形勢ヲ傍觀シ、三成ニ叛キテ東軍ニ應ジ、俄ニ大谷嘉隆ノ陣ヲ衝ク。西軍大ニ

敗走ス。

四 結果

イ 三成ヲ行長ハ捕ヘラレテ斬ラル。

ロ 輝元及ビ景勝ハ封土ヲ削ル。

ハ 秀頼ハ幼ナルヲ以テ罪ヲ問ハズ、攝河泉六十五萬石ヲ與フ。

二 天下ノ大權家康ニ歸ス。

一九 豐臣氏ノ滅亡

一 大坂冬ノ役 家康、豐臣氏ヲ滅ボサントス。慶好策ヲ用ヒテ、秀頼母子ヲ激セシム。加藤清正、淺野幸長、相次デ歿シ、片桐且元茨木ニ老シ、豐

臣氏ノ遺臣秀頼ノ爲ニ圖ルモノナシ。慶長十九年、大野治長等、豐臣氏ノ遺業ヲ恢復セント欲シ、淀君ニ進メテ兵ヲ擧ゲシム。眞田幸村、後藤基次、長曾我部盛親等來集ス。然レドモ領地所有ノ諸侯ハ、家康ヲ憚リテ應ズル者ナシ。家康、秀忠ト共ニ大軍ヲ率ヰテ來リ攻ム。幸村奇計ヲ以テ東軍ヲ惱マシ、基次、木村重成等奮戰敵ヲ挫ク。家康容易ニ陷落スベカラザル知リ、人ヲ遣シテ和ヲ議セシム。秀頼之ヲ諾シ、外濠ヲ埋ムルコトヲ約ス。家康約ニ背キテ內濠ヲモ埋ム。

大城夏ノ役　元和元年、秀頼等又再擧ヲ圖ル。來集スル者十五萬。軍容ヲ修メテ關東ノ兵ノ來リ圍ムヲ待ツ。家康又秀忠ト大軍ヲ率ヰテ來リ攻ム。

幸村、重成等戰死シ、東軍火ヲ城ニ放ツ。秀頼、淀君ト共ニ自殺ス。五月八日ナリ。

三　德川氏時代

一　德川家康

系統。　新田氏ノ支流ニシテ義貞ノ裔ナリ。義貞ノ一族義重、上野掛川ニ居リ、世々世羅田氏ヲ稱ス。後三河ニ移リ、松平ト改メ、後更ニ德川ト改ム。家康ノ父ハ廣忠、祖父ハ清康。清康三河岡崎ヲ領シ、稍世ニ知ラル。

經歷。　家康沈重ニシテ大量アリ。武略人ニ超ユ。幼ニシテ今川氏ニ質トナリ、義元戰死ノ後、岡崎ニ歸リ、近傍ノ土地ヲ攻略シテ自立シ、織田氏ト

結ビテ今川氏ノ舊地ヲ略シ、後共ニ武田氏ヲ滅ボシ、甲斐ヲ略ス。信長死後、羽柴秀吉政權ヲ取ルニ及ビ、之ニ從ヒテ其客將トナル、秀吉、信長ノ弟、信雄ト隙ヲ生ズルニ及ビ、家康義ヲ守リテ信雄ヲ助ケ、小牧ノ一戰武名ヲ揚ゲ。秀吉、信雄ト和スルニ及ビ、秀吉ニ從ヒテ北條氏ヲ征シ、其故地ヲ得テ江戸城ニ築ク。秀吉薨後、大ニ聲望アリ。石田三成、豐臣氏ヲ害センコトヲ慮リ、兵を事ゲテ除カントス。家康關ケ原ニ會戰シテ勝チ、天下ノ大權其手ニ歸ス。慶長八年、征夷大將軍ニ任ジ、在職二年。職ヲ其子秀忠ニ讓リ、駿府ニ退隱シテ老ス。然レドモ軍國ノ大事ハ、其實權ヲ握ル。元和元年、秀賴ヲ大坂城ニ滅ボシ、嗣澤家久ヲシテ琉球ヲ征服セシム。元和二年駿府ニ薨ズ。

二 後水尾天皇

二 德川幕府ノ組織（家康、秀忠）

一 法制

イ 武家ノ法度ヲ設ケ、諸大名以下ヲ檢束ス。

ロ 公家ノ法度ヲ設ケ、專ラ公家ノ抑制ヲナス。

二 對朝廷政略

二條昭實ト謀リ、公家法度十七條ヲ制シ皇室及ビ公家ノ威權ヲ控制ス。其一ニ曰ク、天皇ハ專ラ古道和歌ヲ學ブベシ。政務ハ將軍ノ任ナリト。陽ニハ皇室ヲ尊崇シ、皇居ヲ造營シ、供御ノ地ヲ獻ジ、廢興ヲ興ス等、專ラ柔順ヲ假裝スレドモ、陰ニハ朝廷ノ實權ヲ殺ギ奉ル。京都所司代ヲ

置キ、諸侯ノ京師ニ出入スルヲ戒ム。

三 徳川幕府ノ組織（家光）

一 中央政廳。

イ 大老ヲ置クモ常置ニアラズ。將軍ヲ補佐シ政務ヲ總括ス。

ロ 老中ハ江戸及ビ諸府ニ置ク。執政ナリ。

ハ 旗本總支配（後ニ若年寄）ヲ置ク。參政ナリ。

二 勘定奉行、寺社奉行、江戸町奉行ヲ置ク。

ホ 總目附（後ノ大目附）ヲ置ク。

二 地方政廳

イ 所司代ヲ京都ニ置ク。禁裏ヲ守護スルノ外、同時ニ朝廷ヲ整制シ、兼テ關西ヲ監視抑制ス。

ロ 城代ヲ大坂ニ置ク。

ハ 町奉行ヲ奈良、伏見、新潟、長崎ニ置ク。

二 郡代、代官ハ幕直轄地ニ置ク。

三 大名ノ配置

イ 三家ハ水戸、尾張、紀伊ヲ云フ。所謂親藩ナリ。水戸ハ賴重、尾張ハ義直、紀伊ハ賴宣ヲ祖トス。皆家康ノ子。

ロ 譜代ハ家臣ノ大名トナリタルモノニシテ、人質ニ差シ出シ、關東ニ接シ、要地ニ配置ス。

ハ 外様ハ、徳川氏ノ家臣ニアラザルモノヲ以テス。

二 大名ノ邸宅ヲ江戸ニ定メ、妻子ヲ居住モシメテ、人質ニ擬シ、隔年ニ交代シテ領地ニ歸セシム。之ヲ參勤交代ト云フ。

四 譜代ト外様ノ別

一 譜代大名 家康ノ祖先以來、隨從スル處ノ家臣ニテ一萬石以上領スル者。

二 外様大名 譜代ニアラズ、後ニ至リテ、臣屬セル大名ヲ云フ。

五 大名ト旗本ノ別

一 大名 一萬石以上ノ家祿ヲ有スル者。

二 旗本 幕府ノ旗下ニ隨從シ、一萬石以下ノ祿ヲ受ケル者。

六 三家、家門及ビ三卿

一 三家 一、家康其六子義直ヲ尾張ニ。二、七子頼宣ヲ紀伊ニ。三、季子頼房ヲ水戸ニ封ズ。

二 家門 庶長子秀康ヲ越前ニ封ズ。

三 三卿 後ニ至リテ連枝ヲ封ゼルモノニシテ田安、一橋、清水ヲ云フ。其資格ハ三家ト同等ナリ。

七 耶蘇教ノ嚴禁

一 由來 三、明正天皇

初メ織田信長耶蘇教ヲ信ジ、自カラ布教師ヲ引見シテ、南蠻寺、大

成寺等ヲ建立ス。豊臣氏之ヲ奉ズルヲ禁ジタルモ、小西、大友、大村等ノ諸將之ヲ信ズル者多シ。

二 原因 慶長十六年、書ヲ幕府ニ上リ、耶蘇教徒ノ異志アルヲ告グ。

三 寛永十二年、幕府嚴ニ之ヲ禁ジ、信教ノ諸侯ナシテ屠腹セシメ、又ハ阿媽港ニ追放ス。

八 海外貿易ト御朱印船

一 海外貿易、初メ我國ト貿易スル者ハ唯葡萄牙人ナリシガ、後英吉利、和蘭亦通商ヲ請フ。其後蘭人ハ暹羅、墨西哥ノ諸國ニ通商ヲ請フ。然レドモ耶蘇教ノ厳禁ト共ニ、幕府ハ從來ノ阿久根、博多、平戸及ビ大村ノ港ヲ鎖シ、長崎ノミヲ互市場トナス。

二 御朱印船 我邦人巨船大舶ヲ造リテ、貿易ノ爲ニ海外ニ赴ク。幕府此船ニ朱印狀ヲ下附ス。

九 參勤交代賓禮ノ廢止

一 出來 家康、秀忠ハ、外樣大名ヲ待ツニ賓禮ヲ以テシ、大名ノ參勤交代ニ當ル者、必ズ城外ニ出テ、交代ス。

○ 事實 三代將軍家光軍職ニ就クヤ、外樣大名ヲ集メ、我祖ハ卿等ノ力ニ依リテ、天下ヲ得タリ。故ニ賓禮ヲ以テ之ヲ待テリ。予ハ生レナガラニシテ天下ニ主トナリタリ。自今卿等ヲ待ツニ賓禮ヲ取ルコト能ハズ。譜代大名ト

同ジク主從ノ禮ヲ以テセシ。卿等若シ之ニ服セズンバ、歸國シテ去就ヲ決セヨト告グ。一座伏シテ拒ム者ナシ。徳川氏ノ威權益盛ナリ。

一〇 山田長政ノ事蹟 駿河人ナリ。商船ニ乘ジテ臺灣ニ渡航シ、更ニ暹羅ニ赴ク。時ニ暹羅ノ内亂アリ。國ノ委囑ニ依リテ、兵ニ將トシテ敵軍ト戰ヒ、遂ニ之ヲ平定ス。王喜ビテ其女ヲ與ヘ、執政トシテ國政ヲ執ラシム。

一一 濱田彌兵衛ノ事蹟 臺灣ノ酋長和蘭人、我船ノ彼地ニ到ルモノヲ抑ヘ、其物品ヲ略奪シ、船夫ヲ害ス。彌兵衛長崎代官ノ命ヲ受ケ、部下百餘名ヲ率ヰテ到リ、酋長ヲ訪ヒ、礼問シテ物品ヲ償却セシメ、且其子ヲ質トシテ携ヘ歸ル。

一二 天草ノ亂

一 原因 耶蘇教ヲ嚴禁迫害スルニ基ク。

二 事實 寛永十四年、小西行長ノ遺臣耶蘇教ヲ奉スル者、肥後天草ニ據リ、益田時貞ヲ擁シテ兵ヲ擧グ。其勢三萬五千餘人、嶋原ヲ略取シテ猖獗ヲ極ム。幕府板倉重昌ヲシテ之ヲ討ダシム。利アラズ。重昌奮戰シテ死ス。

三 結果 松平信綱來會シ、城ヲ圍ムコト三月、時貞以下皆誅ニ伏ス。

一三 由井正雪ノ亂 後光明天皇

一 由來 家光薨ジ其子家綱ノ幼ナルニ乘ジテ亂ヲ起ス。

二 事實 慶安四年七月、江戸ノ浪人由井正雪、丸橋忠彌等、亂ヲ作リントシテ、忠彌ハ江戸ニ、正雪ハ駿府ニアリ。期ヲ定メテ東ニ呼應セレトス。事發覺ス。

四 後西院天皇

三 結果 江戸町奉行神尾元勝、石谷貞清、歩卒ヲ率ヰテ忠彌ヲ捕ヘ、駒井右京ハ駿府ニ赴キテ正雪ヲ捕ヘントス。正雪自殺ス。忠彌等三十餘人品川ニ誅ス。

四 例幣使ノ始 正保三年、將軍家光奏シテ年毎ニ日光ニ奉幣使ヲ賜ハランコトヲ請フ。公卿等之ヲ議シ、天下ノ大亂ヨリ伊勢大廟スラ奉幣中絶セリ。獨リ日光ノ之ヲ行フベケンヤ。家光奏シテ伊勢ノ奉幣使ヲ復興センコトヲ請フ。上皇之ヲ許シ、日光ニ奉幣使ヲモ許可セラルルニ至レリ。

五 後西院天皇

五 明暦ノ大火 明暦三年、江戸ニ大火アリ。焚燒數日、市街概子烏有ニ歸ス。焼死スル者十萬餘人。江戸城亦災ヲ罹リ、諸侯ノ邸宅大半燒亡ス。幕府命ジテ瓦葺又ハ塗屋根ニ改メシメ、町奉行ヲシテ消防夫ヲ置キ、不之ヲ備ヘシム。

六 霊元天皇

六 殉死ノ禁令 上古野見宿禰ノ形ヲ造リテ殉死ニ代ヘシガ、殉死ノ風漸ク古ニ復ス。寛永之ヲ止メントシテ禁ジテ禁サズ。家光之ヲ禁ズルモ、堀田正

盛等之ニ殉ス。水戸光圀之ヲ憂ヒ、卒先シテ此法ヲ止メ、寛文三年、幕府全國ニ令シテ之ヲ嚴禁ス。

七 東山天皇

一七。綱吉ノ治蹟

一 興學 學ヲ好ミ大ニ文學ヲ興隆ス。屢諸侯ヲ城中ニ召シ、自カラ經典ヲ講ジ、忍ケ岡ノ聖堂ヲ湯嶋ニ移シ、自カラ釋典ノ禮ヲ行ヒ、其傍ニ學校ヲ設ケ、林大學頭ヲシテ學頭タラシム。之ヲ昌平黌ト云フ。

二 奬政

イ 晩年政治ニ倦ミ、政ヲ柳澤吉保ニ委シ、甲府十五萬石ヲ賜フ。

ロ 奢侈遊宴ヲ事トス。

ハ 佛法ヲ信ジ、施與ヲ好ミ、寺院ヲ建立ス。

二 己ガ生年ノ戊年ニ當レルヲ以テ、犬ヲ殺スヲ禁ズ。是ガ爲メニ刑セラルヽ者頗ル多ク、犬公方ノ稱アリ。

ホ 財政困難ニ當リ、之ヲ救ハンガ爲メニ、大判小判ヲ改鑄ス。金ニハ銅、銀ヲ混入シ、銀ニハ鉛、銅ヲ混入ス。

一八 元祿時代ノ文學

一 國學者

イ 僧契沖ハ難波ノ人、古語ノ研究ヲナシ、始メテ國學ヲ起シ、徳川光圀ノ

イ 依田ハ受ケ嵩業集ヲ註ス。

ロ 北村季吟ハ玉津嶋ノ祠人ナリ。國書ニ精シク、和歌ヲ善ス。幕府徵シテ歌學方トス。

ハ 松尾芭蕉ハ、伊勢ノ人、初メ季吟ニ學ビ、後江戸ニ住シテ俳諧ヲ復興ス。

二 漢學者

イ 熊澤蕃山 中江藤樹ノ門人ナリ。池田輝政ニ仕ヘ、經世ノ才識ニ富ム。

ロ 伊藤仁齋 京師ノ人、古學ヲ首倡シ、德行ヲ以テ稱セラル。其子東涯亦名アリ。

ハ 貝原益軒ハ博學ノ人ニシテ實用ノ學ヲ主トス。假名交リ文ノ著書多シ。

ホ 木下貞幹ハ京師ノ人、博學高才ニシテ幕府時召サレ、後才ノ士多ク門下ニ出ヅ。

ヘ 中江藤樹ハ近江ノ人ニシテ近江聖人ノ稱アリ。王陽明ノ學ヲ唱フ。

ト 山崎闇齋ハ宋學ヲ奉シ、垂加流ノ神道ヲ唱フ。

チ 荻生徂徠ハ古文辭學ニ名アリ。

一九 元祿時代ノ風俗 幕府ノ當初ニ於テハ、專ラ浮華優柔ヲ排スト雖モ、今ハ太平ニ馴レテ奢侈華美トナリ、亦實廉恥ヲ思フ者ナク、大平逸樂ニ馴レテ、剛健尚武ノ風ヲ缺ク、唯浮華優柔ヲ事トスルノミ。

二〇 元祿時代ノ美術工藝

一 家光時代

イ 畫ニハ岩佐又兵衛、浮世繪ヲ始メ、狩野派ニハ狩野探幽アリ。

ロ 蒔繪ニハ本阿彌光悦ノ名手ヲ出ス。

二 綱吉時代

イ 繪畫ニハ英一蝶、菱川師宣及ビ尾形光琳アリ。

ロ 蒔繪ニハ光琳又大ニ名ヲ顯ハス。常憲院時代物ノ名ヲ得タリ。

三 徳川光圀ノ治績

一 勤王 諸國ノ儒者ヲ召集シ、大日本史ヲ編シ、大義ヲ明ニシ、名分ヲ定ム。

楠正成ノ碑ヲ湊川ニ建テ、自カラ「嗚呼忠臣楠氏之墓」ト題シ、忠君愛國ノ風

ヲ喚起ス。

二 興學 明ノ遺民朱之瑜（舜水）ヲ養ヒ、彰考館ヲ建テ、其師トナシ、盛ニ文教ヲ振興ス。自カラ扶桑拾葉集、禮典類聚等ヲ編ス。

三 赤穂義士ノ復讐

一 原因 年賀ノ勅使東下スルヤ綱吉、赤穂城主淺野長矩ニ命ジテ之ヲ接待セシム。長矩、吉良義央（ヨシナカ）ノ典禮ニ精通セルヲ以テ、其ノ禮ヲ問ハントス。義央賄遺ノ少ナキヲ以テ嘲ミ、長矩ヲ辱シム。長矩怒リテ義央ヲ殿中ニ刃傷ス。幕府長矩ニ死ヲ賜フ。

二 結果 長矩ノ遺臣大石義雄等、主家ノ沒落ヲ見テ憤懣ニ堪ヘズ。元祿十

二 五年十月（又傷ノ翌年）義央ヲ刺殺シ、ヲ誅復ス。幕府義雄等ニ死ヲ賜フ。

幕府義雄ニ死ヲ賜フ

八 中御門天皇

三 吉宗ノ中興

一 政治

イ 法度書ト稱スル裁判法ヲ定ム。

ロ 公事方定書百ヶ條ヲ制定ス。江戸幕府ノ時、殊ニ重ンゼラレタルモノ。

ハ 令書七十條ヲ諸國ニ頒チ、町村吏ヲシテ庶民ニ讀ミ聞カサシム。

二 享保三年、乾字金ノ通用ヲ禁ジ、元祿製ノ金銀ヲ停止シ、貨幣改鑄ヲナ

金銀貨トモニ純良トナル。

ホ 大岡忠相ヲ拔擢シテ江戸町奉行ニ任ジ、斷獄ヲ司ラシム。

ヘ 室鳩巢、荻生徂徠ヲ顧問ニ擧ク。

ト 出雲田左衛門ヲ擧ゲテ古制ヲ問フ。

四 學藝ノ奬勵

イ 吉宗天文學ヲ修メ、自カラ其機械ヲ製作ス。

ロ 洋學ハ耶蘇教輸入ノ恐アルヲ以テ、之ヲ禁止シアリシガ、宗教ニ關係ナキモノハ之ガ輸入ノ禁ヲ弛ベテ購讀ヲナサシム。

ハ 青木昆陽ヲ長崎ニ遣ハシテ洋學ヲ修メシム。

三 產業ノ奬勵

青木文藏（昆陽）モ甘藷ヲ栽培シ、

イ 甘藷ノ栽培法ヲ講ジ、青木文藏（昆陽）ヲシテ專ラ其事ニ當ラシム。（方今東京ノ西郊ニ「甘藷先生之墓」ト題スルモノアルハ文藏ノ墓ナリ）

ロ 人參ヲ栽培シ、又甘蔗ヲ培養シ、製糖ヲ奬勵ス。

ハ 紀伊蜜柑、甲斐ノ葡萄、上野、信濃附近養蠶、土佐ノ鰹節等ノ國產ヲ興トス。（吉宗天文學モ研究シ、自ラ北極高度ヲ測定ス。）

二四 洋學ノ傳來

一 由來日本幕府耶蘇教ヲ禁ジテヨリ、西洋ノ文物我邦ニ傳來スルコトナカリシガ、將軍吉宗、自ラ西洋學術ノ勝レタルヲ知リ、耶蘇教ニ關セザルモノ外、洋書ノ輸入ヲ許ス。依テ之ヲ學ブモノ漸次多ク、西洋ノ事情ハ、漸ク明カニ至ル。（金瓶梅ハ禁書ニ屬ス。）

二 結果

イ 吉宗、和蘭ノ圖書ヲ見テ、其精密ナルニ感ジ、青木昆陽ヲ長崎ニ遣ハシ、蘭書ノ研究ヲナサシム。

ロ 吉宗自カラ簡天儀ヲ造リ、司天臺ニ備フ。

ハ 西洋曆ヲ折衷シテ一種ノ曆ヲ製ス。寶曆ノ曆是ナリ。

三 新井白石ヲシテ蘭書ヲ翻譯セシム。白石博學精通シ、外人ニ就キ、萬國ノ地理ヲ問ヒ、其書ヲ著ス。

四 山脇東洋、蘭書ニ依リテ醫術ヲ研究シ、刑人ノ屍體ヲ解剖ス。

二五 新井白石ノ事蹟

一 爲人博覽宏識、經世ノオアリ。江戸幕府時代ノ活儒ト稱セラル。

二 時代 將軍綱吉薨ス。家宣將軍トナル。間部詮房ヲ用ヒ、專ラ諸政ヲ釐革セントス。延イテ將軍家繼及ビ吉宗ノ世ニ至ル。

三 事歷

イ 力ヲ貨幣ノ改鑄ニ盡シタガ、家宣、家繼二代ハ在職各ヒテ僅ニ六年ナリ。未ダ効ヲ奏スルニ至ラズ。吉宗ノ時ニ至リ、享保元年、先ヅ乾子金ノ通用ヲ禁ジ、十年又元祿製ノ金銀ヲ停止シ、新貨ハ總テ慶長ノ制ヲ繼ギトナシ、ヲ鑄造セシム。金銀貨ハ純良トナル。

ロ 正德五年、外國貿易ノ額ヲ定メ、專ラ金銀貨ノ流出ヲ豫防ス。

ハ 親王家ハ有栖川、伏見ニ京極ノ三家ナリシガ、建議シテ閑院家ヲ置ク。

四 著書 西藩輸譜、讀史餘論、來覽異言、折焚柴記、其他殆ド三百餘種アリ。

二六 田沼意次ノ失政

一 原因

イ 後桃園天皇 將軍吉宗ノ子家重、將軍職ニ就ク。多病ニシテ自カラ政務ヲ見ズ、田沼意次ヲ拔擢シテ政ヲ執ラシム。

ロ 將軍家治、家重ニ次デ立ツ。意次ノ子意知ヲ用フ。意次ハ老中トナリ、意知ハ若年寄トナル。

二 事實

イ 直言ヲ杜絶シ、上下蔽塞ス。

ロ 奢侈ニ流レ、遊惰ヲ事トシ、家財大ニ缺乏シ、終ニ商人ヨリ財ヲ借ルニ至ル。

ハ 重稅ヲ課シ、賄賂公行ス。

三 天明四年大凶饉ニ會シ、餓莩路ニ滿ツレドモ、苛政ヲ絶タズ、且ツ大水害、地震等ノ天災荐リニ臻ル。

三 結果 怨聲四方ニ起リ、幕府ノ勢力、大ニ衰フ。天明四年三月、旗下ノ士、佐野政言、私怨ヲ以テ意知ヲ營中ニ斬ル。意次職ヲ罷メラル。

二七 寛政ノ治

一 光格天皇

一 將軍家齊ノ出身 幕府ニ三卿アリ、田安、一橋、清水是ナリ。領地ヲ與ヘズト雖モ、資格ハ三家タル紀、尾、水ニ同ジ。家齊ハ一橋家ノ出ナリ。

二 松平定信ノ出身 田安宗武ノ子ニシテ賢明才學ニ富ム。老中ノ職ニ就キ將軍ヲ保佐ス。

三 事實

イ 定信賢明ニシテ學識ニ富ミ、弊政改革ニ鋭意ス。

ロ 天明八年ノ皇城炎上ニ際シ、自カラ其局ニ當リテ造營ヲ總理ス。

ハ 光格天皇資性孝謹、御生父典仁親王ヲ尊テ太上天皇トナサントス。公卿等ノ議論紛々決セズ。寛政五年、中山愛親、正親町公明ヲシテ幕府ニ諮ラシム。定信不可トシ、名分ヲ紊リ、僭亂ノ道ヲ開クモノナリトシテ拒ミ奉ル、伏テ廩米二千石ヲ奉ズルコトヽス。

ニ 天下ニ令シテ三年間諸事儉約ヲ行ハシメ、諸侯ヲシテ凶荒ニ備ヘシメ、奢侈ヲ再ビ嚴禁ス。

ホ 學制ヲ改革シ、昌平黌ヲ改善シ、學事ヲ奬勵ス。

ヘ 孝子、節婦、義僕等ヲ賞シ、姦邪ヲ戒ケ、事ヲ實眞ヲ用フ。

ト 武技ヲ練磨シ、風俗ヲ改良シ、農事ヲ奬勵ス。

三八 諡號ノ復興

宇多天皇、諡號ヲ止メラレシヨリ歷代追諡ノ事ナシ。光格天皇ノ崩ズルニ及ビテ、仁孝天皇ハ幕府ニ諮リ、諡號ヲ復興シ、光格天皇ノ諡號ヲ上ル。

三九 寛政ノ三奇士

高山彦九郎名ハ正之、上野ノ人、少ウシテ氣節アリ。慷慨ヲシテ大志ヲ懷キ、皇室ノ式微ヲ慨シ、談會々王事ニ及ベバ流涕ス。京師ニ入リテ縉紳ノ門ニ出入ス。嘗テ三條大橋ヲ過ギ、伏シテ宮闕ヲ拜シ、草莽ノ臣正之ト言

フ。後九州ニ至リ、屠腹シテ死ス。

二 蒲生君平　下野ノ人ナリ。正之ト志ヲ同ジクシ、歴朝山陵ノ荒廢セルヲ歎キ、諸國ヲ跋渉シテ其處在ヲ探リ、山陵志ヲ著ハシテ人心ヲ鼓舞ス。

三 林子平　仙臺ノ人ナリ。豪放不羈、夙ニ海外ノ形勢ニ通ジ、海防ノ忽ニスベカラザルヲ論ジ、海國兵談、三國通覽等ヲ著ハス。書中ノ言過激ニシテ幕府ノ忌ム處トナリ、捕ハレテ禁錮セラル。

三〇 國學ノ勃興

一 塙保己一　和學講談處ヲ建テ、之ヲ管セシム。

二 本居宣長　伊勢ノ人、加茂眞淵ニ學ビテ大ニ皇學ヲ明カニス。著書甚ダ

多シ。神道ヲ主張シ、儒佛ヲ排斥ス。

三 加茂眞淵　荷田春滿ノ門ニ學ブ。古言古歌ニ精通シ、儒者ノ國體ヲ誤レルヲ排セリ。

四 平田篤胤　宣長ノ門ニ出ヅ。其師ノ志ヲ繼キ、尊王愛國、內尊外卑ヲ主張シ、書ヲ著ハシテ一世ヲ警醒ス。

五 荷田春滿（カダノアツマロ）　國史律令ニ精通シ、加茂眞淵ハ其門ニ出ヅ。

三一 幕府海防ノ沿革

一 露人ノ出沒　天明以後、露國屢我ガ北邊ニ出沒シテ邊境ヲ窺フ。

二 漂民ノ送致　寛政五年、露國我ガ漂民ヲ送致シ來リテ交易ヲ請フ。幕府

一 諭シテ長崎ニ回航セシメ糧食薪水ヲ與ヘテ去ラシム。

三 江戸近海ノ警備　執政松平定信、江戸近海ヲ巡視シ、諸藩ニ命シテ海防ヲ嚴ニセシム。

四 露國ノ侵略　我カ蝦夷地ノ開拓未ダ著ルシカラサルヲ乘シテ、樺太、北部ヲ開拓シ、又千島、擇捉ニ來リテ、擅ニ標柱ヲ建ツ。幕府近藤守重ニ命シテ蝦夷ヲ巡視セシム。寛政十一年、守重蝦夷ニ到リ、露國ノ標柱ヲ撤去シ、大日本擇捉ノ標柱ヲ立テヽ歸ル。

五 測地測圖　伊能忠敬、間宮林藏等、命ヲ奉シテ蝦夷ニ入リ、蝦夷、樺太ヲ測量シ、測圖ヲ製ス。

六 露使ノ通商　文化元年、露ノ使節、長崎ニ來リテ通商ヲ請フ。幕府之ヲ拒絶ス。後露船、志ヲ得ザルヲ以テ、蝦夷ニ寇シテ去ル。

七 英船ノ剽掠　英船長崎ニ來リテ大ニ剽掠ス。戍卒之ヲ防ゲコト能ハズ。奉行松平圖書憤死ス。英船勢ニ乘ジテ通商ヲ請フ。許サズ。

八 文化十一年、千島ノ境界ヲ定メ、得撫島ヲ以テ露國トノ境界トス。

一一 仁孝天皇

三 大鹽ノ亂

一 原因　將軍家齊、晩年政ニ倦ミテ遊宴ニ耽リ、財政頗ル窮乏ス。且天保三、四年以來諸國ニ飢饉アリ。同七、八年ニ至リテ更ニ甚ダシ。大坂ノ與力

大塩平八郎、窮民ヲ救濟セント欲シ、自カラ藏書ヲ賣リ、資ヲ得テ救助ノ資ニ充ツルモ直ニ盡ク。依テ官ノ倉庫ヲ開キテ人民ヲ賑恤センコトヲ請フ。官省ミズ。

二 結果 平八郎憤激禁ズルコト能ハズ。同志ヲ糾合シ、富豪ノ穀ヲ奪フテ貧民ヲ賑ハシ、火ヲ放ツテ大坂城代ヲ襲ス。幕府兵ヲ發シテ之ヲ討ズ。平八郎自殺シテ事止ム。

三 天保ノ改革

一 原因 將軍家慶職ヲ襲ク。水野忠邦老中トナル。英敏ニシテ經世ノオアリ。治ヲ寛政ニ復セント欲シ、節儉ヲ勉メ、奢侈ヲ禁ジ、浮華ヲ戒メ、武事

ヲ奬ム。ス。依テ幕府ノ財政一時整理スレ

二 結果 積年ノ弊習、容易ニ除キ難ク、且ツ其施設スル所、急激ニ失シ、上下ノ憤怨ヲ招ク。

三 孝明天皇

四 米艦ノ渡來

一 事實 嘉永三年、米國ノ水師提督「ペルリ」軍艦四隻ヲ率ヰテ浦賀ニ來リ、國書ヲ提出シテ交易ヲ開カンコトヲ請フ。幕府來年ヲ期シテ返答センコトヲ約ス。「ペルリ」去リテ、翌年復タ浦賀ニ來ル。

二 結果

イ 幕府假リニ下田、長崎、函館ノ三港ニ碇泊スルコトヲ許ス。

ロ 船艦ニ薪水ヲ給スルコトヲ許ス。

ハ 未ダ通商貿易ヲ許サズ。

三五 露國來朝

一 事實 將軍家慶薨シ、家定嗣グ。時ニ露西亞ハ軍艦ヲ以テ長崎ニ來リ、隣好ヲ修メ、樺太ノ境界ヲ定メンコトヲ請フ。

二 結果 幕議決セズ、決答ヲ延期シテ去ラシム。

三六 櫻田ノ變

一 由來

イ 安政二年、米國領事「ハリス」將軍ニ謁シ、國書ヲ呈シテ互市ヲ請フ。幕議決セズ。松平春嶽、幕府ニ勸メテ勅裁ヲ請ハシム。當時朝議、攘夷ニ傾ク。ヲ以テ之ヲ許サズ。「ハリス」屢々促ス。幕府苦ム。

ロ 安政五年、井伊直弼大老トナル。直弼國ノ主義ヲ有ス。「ハリス」屢々脅迫シテ條約ノ締結ヲ促ス。直弼意ヲ決シテ長崎、函館、神戸、神奈川、横濱五港ヲ開キ互市ヲ許シ、假條約ヲ締結ス。英、佛、蘭、露ノ諸國亦之ニ倣フテ假條約ヲ締結ス。

ハ 假條約ノ事終テ京師ニ奏ス。在京ノ志士、之ヲ聞テ大ニ怒ル。時ニ將軍家定薨シ、嗣ナシ。徳川慶勝、松平慶永等、一橋慶喜ヲ立テント欲ス。諸大

藩之ヲ賛ス。慶喜ハ水戸齊昭ノ子ナリ。直弼、齊昭ヲ忌ミテ喜バズ。家定ノ遺志ト稱シテ、家茂ヲ紀伊ヨリ迎ヘ立ツ。慶勝、慶永、齊昭等、益々其專横ヲ憤ル。

二 齊昭入臣、京師ノ志士ト謀リ、密ニ攘夷ノ密旨ヲ受ケテ齊昭ニ授ク。直弼之ヲ知リテ齊昭ヲ禁錮シ、命ヲ下シテ諸國ノ勤王攘夷論者ヲ捕ヘ、悉ク牢獄ニ投ズ。所謂安政ノ大獄是ナリ。

三 天下騷然、人心激昂、志士ハ切齒扼腕シテ直弼ヲ罵ル。水戸ノ浪士、佐野竹之助等十八人、直弼ノ登城ヲ櫻田門ニ要シ、終ニ之ヲ殺ス。

三七 坂下門ノ變

一 原因 安藤信正、直弼ニ次デ大老トナル。信正、直弼ノ方針ニ從ヒテ、公武合體、海内一致シテ攘夷ノ功ヲナサントト欲シ、皇妹和宮ヲ關東ニ降嫁セシコトヲ請フ。天皇之ヲ許ス。文久元年遂ニ降嫁アラセラル。

二 結果 諸國勤王ノ士、聞テ喜バズ、信正ヲ坂下門外ニ要シテ殺サントス。成ラズシテ止ム。

三八 男山行幸（攘夷ノ節刀）

文久三年將軍家茂入朝ス。天皇男山ニ行幸シ、八幡廟前ニ於テ、攘夷ノ節刀ヲ家茂ニ賜ハントス。家茂病ト稱シテ供奉セズ。慶喜亦病ト稱シテ社頭ヲ退ク。諸國勤王ノ士、大ニ幕府ノ亡狀ヲ憤ル。乃チ迫リテ天皇ノ親征ヲ請フ。家茂再ビ入朝シテ勅旨ヲ奉ジ、全國ニ攘夷ヲ布

告ス。

三九　下ノ關事件

一　原因　將軍家茂入朝シテ聖旨ヲ奉ジ、攘夷ノ令ヲ全國ニ布ク。

二　事實　文久三年五月、英、米、蘭、佛四國ノ軍艦會下ノ關ヲ過ク。長藩擊テ之ヲ奔ラス。元治元年八月、外國連合シテ赤間關ヲ襲フ。長藩復タ擊テ退ク。

三　結果　和議成リ、四國、幕府ニ迫リテ償金ヲ要求ス。

四〇　生麥事件

一　由來　攘夷者諸所ニ起リテ、洋館ヲ燒キ、洋人ヲ傷クルアリ。幕府事態ノ容易ナラザルヲ認メ、各國公使ニ告ゲテ鎖港ヲ議ス。公使聽カズ。文久二年、嶋津久光、勅使ヲ護シテ東下ス。途ニ生麥村ヲ過グ。會ヘ英人、騎シテ其先驅ヲ遮ル。從士怒リテ之ヲ斬ル。

二　事實　英人大ニ怒リ、幕府ニ迫リテ償金ヲ要求ス。更ニ軍艦ヲ鹿兒嶋ニ遣リ、死者遺族ノ救恤金ヲ要求ス。薩藩之ヲ拒ミ、軍艦ヲ襲フテ走ラス。

三　結果　幕府大事ヲ生ゼンコトヲ慮リ、償金ヲ薩藩ニ貸シテ英人ニ與ヘム。

四一　攘夷論者ノ崛起

一　生野ノ擧兵　平野國臣、南八郎等ハ、但馬生野ニ據リテ兵ヲ擧グ。

二 十津川ノ擧兵 藤本鐵石、松本奎堂、吉村寅太郎等ハ、大和十津川ニ兵ヲ擧グ。

三 筑波山事件 藤田小四郎ハ東湖ノ子ナリ。齊昭ノ志ヲ繼ギテ、尊王攘夷ヲ唱フ。齊昭ノ寵臣武田耕雲齋ト謀リテ、兵ヲ筑波山ニ擧グ。幕兵來リ討ツ。衆寡敵セズシテ敗走ル。

四 長州征伐

一 原因ノ一 嶋津久光、毛利定廣ノ入朝スルヤ、浪士ヲ鎭撫セシム。當時長藩ハ、其意見討幕ニ傾キ、薩藩ト議合ハズ。文久三年、天皇大和ニ行幸シ、春日山ヲ行在トシテ外夷ヲ親征セントス。京師ノ守護松平容保、薩藩ト結テ

謀ル處アリ。之ヲ止ム。朝議俄ニ變ジ、大和行幸ヲ中止シ、長藩ノ守護ヲ解キ、會津、薩摩兩藩ナシテ代ラシム。又三條實美等七卿ヲ屏居セシム。長藩ノ士、實美以下ヲ奉ジテ長門ニ走ル。朝廷其官爵ヲ削リ、長藩ノ入京ヲ止ム。

二 原因ノ二 元治元年六月、長藩ノ老臣、福原越後、益田右衛門、國司信濃等兵ヲ率ヰテ入京シ、藩主ノ寃ヲ訴ヘ、七卿ノ復職ヲ乞フ。朝廷聽サズ。福原等君側ノ奸ヲ除ト稱シ、松平容保ヲ誅セントス。依テ藩籍ヲ脫シ、宮闕ニ入リ、會津、薩摩兩藩ノ守備兵ト戰フ。福原等敗レテ國ニ歸ル。之ヲ蛤門ノ戰ト云フ。

三 開戰。幕府奏請シテ毛利氏ノ官爵ヲ削リ、征長ノ軍ヲ起シ、德川慶勝ヲ

總督トシ、二十一藩ノ兵ヲ率ヰテ討タシム。長藩、福原等三老臣ヲ斬リテ謝ス。事平ヲ得タリ。

四 再征

イ 長藩ニ激論、俗論ノ二黨アリ。激論黨ハ開戰ヲ主張シ、恭順ノ黨ヲ表シタルヲ喜バズ。其首領高杉晋作大ニ怒リ、同志ヲ糾合シテ馬關ヲ襲ヒ、俗論黨ヲ破リテ幕府ニ抗ス。

ロ 幕府再征ノ軍ヲ起シ、家茂自ラ將トシテ大坂城ニ次ス。

ハ 薩藩ノ西鄕隆盛、大久保利通等、長藩ノ木戸孝允ト連合シテ幕府ヲ援ケザルコトヽナル。

五 結果 幕軍連敗シ、家茂薨ジ、慶喜次デ立チ、軍ヲ解ク。

四三 大政奉還

一 今上天皇御即位 慶應二年十二月、孝明天皇崩御。翌年正月、今上天皇即位ス。

二 事實

イ 征長ノ軍東ニ歸リ、薩長兩藩、連合シテ討幕ノ軍ヲ起サントス。

ロ 土佐藩主山内容堂、後藤象次郎ヲ遣ハシテ慶喜ニ說カシム。象次郎、慶喜ニ說クに、時勢ノ變ヲ陳ジ、大政ヲ返上センコトヲ勸告ス。

ハ 慶喜大ニ悟リ、慶應三年十月、政權ヲ返上シ併セテ軍職ヲ辭センコトヲ

德川氏時代

請フ。朝廷之ヲ許ス。家康ヨリ十五代二百六十五年、源頼朝、鎌倉ニ幕府ヲ開キシヨリ六百八十二年ナリ。

一四 今代

一 今上天皇

一 王政維新ノ大業

一 國事議定　慶應三年十二月、在京ノ公卿、諸侯及ビ重臣ヲ會シテ、國是ヲ議セシム。

二 官位復舊　三條實美以下七卿ノ官位ヲ復シ、毛利氏ヲ許シ、其官祿ヲ復ス。

三 新官設置　攝政、關白、將軍等ノ職ヲ廢シ、新ニ總裁、議定、參與ノ三

職ヲ置キ、有栖川宮熾仁親王ヲ總裁トシ、仁和寺宮嘉彰親王、山階宮晃親王、其他薩長土ノ藩士等ヲ議定トシ、岩倉具視、西郷隆盛、大久保利通、木戸孝允、井上馨、後藤象次郎ヲ參與トス。

四 萬機親裁 萬機親裁ノ詔勅ヲ發シ、大小ノ政令一切朝廷ヨリ出ヅ。

五 閥流一洗 門閥ノ弊ヲ一洗シ、人材登用ノ門戸ヲ開ク。

二 伏見鳥羽ノ戰ト戊辰ノ役

一 原因 慶喜軍職ヲ辭スルモ尚内大臣ノ職ヲ帶ビテ二條城ニアリ。朝廷旨ヲ傳ヘテ之ヲ諭シ、對土奉還セシム。德川氏ノ臣之ヲ喜バズ。會津、桑名ノ二藩主ヲ奉ジテ慶喜ニ迫リ、以テ兵ヲ擧ゲシム。慶喜狐疑シテ決セズ。二條城ヨリ大坂城ニ移ル。朝廷命ジテ入京セシム。慶喜入朝セントシ、會津兩藩ノ士、護衛トシテ從フ。

二 伏見鳥羽ノ戰 朝廷嘉彰親王ヲ大將軍トシ、薩長二藩ノ兵ヲ率ヰテ、之ヲ鳥羽、伏見ニ迎ヘ擊ツ。戰鬪四日渉リ、東軍大敗ス。慶喜遁ケテ江戸ニ歸ル。

三 慶喜ノ恭順 明治元年二月、朝廷慶喜ノ官職ヲ削リ、福井藩主松平慶永ヲ征東大總督トシ、西鄕隆盛ヲ參謀トシ、之ヲ討タシム。江戸騷然タリ。慶喜上野寛永寺ニ入リ、恭順ノ意ヲ表シ、勝安房ヲ遣ハシテ罪ヲ謝セシム。西鄕隆盛請フテ死一等ヲ減ジ、水戸ニ屏居セシム。

四 彰義隊ノ亂　幕府ノ遺臣、慶喜ノ恭順ヲ快トセザル者、上野東叡山ニ據リ、自カラ彰義隊ト號シ、輪王寺宮公現法親王（北白川宮能久親王）ヲ奉シテ王師ニ抗ス。官軍擊テ之ヲ走ラス。

五 五稜廓ノ戰　彰義隊ノ上野ニ敗ルヽヤ、幕府ノ海軍副總裁タリシ榎本釜次郎（武揚）軍艦八隻ヲ奪ヒテ東北ノ海ニ航ス。會津城陷ルニ及ビ、幕府大鳥圭介ト兵ヲ發シテ函館ニ入リ、五稜廓ヲ奪フテ之ニ據ル。官軍水陸協力シテ攻ム。武揚等、歸順ヲ勸メラル。依テ降ル。

三 五條ノ御誓文

一 廣ク會議ヲ興シ萬機公論ニ決スベシ。

二 上下心ヲ一ニシテ盛ニ經綸ヲ行フベシ。

三 官武一途庶民ニ至ルマデ各其志ヲ遂ゲ人心ヲシテ倦マザラシメンコトヲ要ス。

四 舊來ノ陋習ヲ破リ天地ノ公道ニ基クベシ。

五 智識ヲ世界ニ求メ大ニ皇基ヲ振起スベシ。

四 東京遷都

明治元年八月即位ノ禮ヲ行ハセ給ヒ、九月年號ヲ明治ト改メ、一世一元ノ制ヲ立ツ。十月東京ニ行幸ス。翌年三月都ヲ東京ニ遷ス。桓武天皇平安奠都ヨリ千七百四年。

五 版籍奉還

一 原因 舊藩ノ所領ハ、尚藩主ノ有スル所トナリテ統一ノ政令便ナラズ。

二 結果 廢藩ノ議ヲ唱ヘ、藩主ニ說クニ大義名分ヲ以テスル。薩摩、毛利、土佐、肥前ノ四藩主連署シテ奉還センコトヲ請フ。

三 其他ノ諸藩モ之ニ從フ。朝廷之ヲ許ス。

四 結果 舊藩主ヲ以テ藩知事トナシ、舊領ヲ治メシム。明治四年、藩ヲ廢シ、縣ヲ設ケ、縣令ヲ置キテ治メシム。

六 征韓論

一 原因 維新ノ始、朝廷使ヲ朝鮮ニ遣ハシ、新政ノ事ヲ告ゲ、德川氏ノ修好ヲ次ガントセシム。朝鮮應ゼズシテ頗ル無禮ナリ。

二 經過 西鄕隆盛、江藤新平、副嶋種臣、板垣退助等盛ニ征韓論ヲ唱フ。岩倉具視、木戸孝允、大久保利通等歐洲ヨリ歸リ、內外ノ形勢ヲ說テ之ヲ沮止ス。

三 結果 朝廷非征韓論ニ傾ク。隆盛職ヲ辭シテ故山ニ歸リ、江藤等亦病ト稱シテ辭職ス。佐賀ノ亂。西南ノ役、實ニ此ニ胚胎ス。

七 佐賀ノ亂

一 原因 江藤新平征韓論ノ議ノ容レラレザルト、民選議院ノ建議ノ許サレザルトニ依リテ不平ニ堪ヘザルニ基ク。

二 結果 佐賀ニ在リテ征韓黨ノ首領トナリ、嶋義勇ト共ニ兵ヲ擧ゲテ舊城

ナ襲フ。朝廷之ヲ討タシム。新平等遁レテ捕ヘラレ、誅ニ伏ス。明治六年十月ナリ。

八 臺灣征討

一 原因 明治四年、琉球ノ民五十餘人臺灣ニ漂着ス。生蕃捕ヘテ殺戮ス。後又備中ノ人漂着シテ害ニ遭フ。

二 經過 會外務卿副島種臣、全權大使トシテ條約ヲ締結センガ爲清國ニアリ。政府ハ種臣ヲシテ罪ヲ清國ニ問ハシム。清國答フルニ臺灣ハ其管スル所ニアラザルヲ以テス。

三 戰況 西鄉從道ヲ總督トシテ征セシム。從道東部臺灣ヲ略ス。

四 結果 清國臺灣ノ我ガ有ニ歸センコトヲ恐レ、異議ヲ唱フ。大久保利通全權辨理大臣トナリテ清國ト談判ス。互ニ屈セズシテ談判將ニ破壞セントス。英國公使兩國ノ間ニ周旋シ、清國ヲシテ我ニ償金ヲ出サシム。

九 神風黨ノ蜂起

一 原因 熊本ノ士族、新政ヲ喜バザルモノ徒黨ヲ組ミテ亂ヲ起ス。

二 經過 鎭臺ヲ襲ヒテ司令官ヲ殺シ。縣廳ニ到リテ縣令ヲ殺ス。筑前秋月ノ士族及ビ長門ノ前原一誠等、之ニ應ジテ兵ヲ擧ク。

三 結果 朝廷兵ヲ遣ハシテ、神風黨ヲ誅シ、次デ筑前ヲ鎭定シ、一誠ヲ捕ヘテ斬ニ處ス。

一〇 西南ノ役

一 原因 西郷隆盛征韓ノ議合ハズシテ故山ニ歸リ、自カラ資ヲ抛テ、私學校ヲ起シ、子弟ヲ教育シテ其數二萬餘人ニ達ス。陸軍少將篠原國幹、同桐野利秋又辭職シテ歸リ來リ、隆盛ニ從テ私學校ノ監督ヲナス。隆盛ノ威望重ク子弟等、機ヲ見テ動カントス。

二 經過 明治十年二月、子弟ニ擁セラレテ、鹿兒嶋ヲ發シ、政府ニ問フ所アラントス。鹿兒嶋縣令大山綱良、窃ニ資ヲ給シテ之ヲ助ク。隆盛熊本鎮臺ヲ圍ム。同令宮谷干城、能ク防ク。時ニ車駕京師ニ臨ミ、熾仁親王ヲ征討大總督ニ任シ、陸軍中將山縣有朋、海軍中將河村純義ヲ參軍トシテ討タシム。

三 結果 隆盛力盡キテ城山ニ遁ル。官軍之ヲ陷ル。隆盛等自殺ス。

一一 帝國憲法發布

明治十四年、天皇、明治二十三年ヲ以テ帝國議會ヲ東京ニ開カンコトヲ詔セラル。二十二年帝國憲法ヲ制定シテ發布シ、同時ニ皇室典範ヲ定ム。翌二十三年帝國議會ヲ東京ニ召集ス。

一二 明治二十七八年ノ役

一 原因

イ 朝鮮紅海嶋事件 明治八年、我カ軍艦雲揚朝鮮海岸ニ至リ、紅海嶋ヲ測量ス。韓人之ヲ砲擊シ、我軍艦之ニ應戰シテ城邑ヲ焼燬ス。紅韓輪發ス起ル。翌年二月黒田清隆ヲ特命全權大使トシ、往テ之ヲ詰問セシム。朝鮮之ヲ謝シ

獨立國トシテ條約ヲ結ブ。

明治十五年ノ變…朝鮮ニ二大派アリ。一ハ事大黨トシ、他ハ開化黨ト云フ。事大黨ハ、清國ノ屬邦タラントシ、開化黨ハ、開新ノ政ヲ行ヒテ獨立セントス。江華嶋事件ノ後。韓國政府ハ、我士官ヲ聘シテ兵士ヲ訓練セシム。王ノ生父大院君新政ヲ喜バズ。兵士ヲ煽動シテ亂ヲ起サシム。兵士等我ガ公使館ヲ襲撃ス。公使等遁レテ長崎ニ歸ル。政府義質ヲシテ水軍ヲ率ヰテ、京城ニ至リ、其罪ヲ問ハシム。朝鮮卿ヲ謝シ、償金ヲ出シテ止ム。我公使館ニ守兵ヲ置ク。清國亦朝鮮ニ兵ヲ屯セシム。

二、明治十七年ノ變…朝鮮ニ内亂起リ、開化黨首領朴泳孝、金玉均等、事大黨ノ大臣ヲ殺シ、新政府ヲ建ツ。我公使竹添進一郎、國王ノ請ニ依リ、手兵ヲ率ヰテ王宮ヲ守ル。清ノ將袁世凱、大兵ヲ以テ來リ、我兵ヲ襲フ。公使等退ケテ國ニ歸ル。世凱我ガ公使館ヲ燒キ、居留民ヲ殺掠ス。政府伊藤博文ヲ清國天津ニ遣ハシ、談判セシム。條約ヲ締結シテ歸ル。所謂天津條約是ナリ。

三、東學黨ノ亂…明治二十七年、朝鮮ニ東學黨ノ亂起ル。朝鮮政府之ヲ平グルヿト能ハズ。清國ニ請フテ鎭壓セシム。清國ハ天津條約ニ背キテ出兵ス。我亦天津條約ニ從テ出兵ス。清國ハ、我邦ニ牒シテ兵ヲ撤セシム。我ハ未ダ朝鮮ノ内事ノ治マラザルヲ以テ、清國ト共ニ改革センコトヲ以テス。

[illegible]ハ[illegible]ハ[illegible]シテ[illegible]清國ト共同シテ朝鮮政府ニ勸告ス。清國
ハ之ヲ拒絕ス。我ハ獨力ヲ以テ改革セシメントス。[illegible]
朝鮮[illegible]ヲシテ[illegible]セシム。而モ清國ハ兵ヲ增遣シテ我ヲ討タントス。
ホ[illegible]我ガ[illegible]我之ヲ砲擊シ、陸兵ハ
牙山[illegible]ヲ破ル。

二 經過 宣戰ノ詔勅ハ八月一日[illegible]
イ 宣戰ノ詔勅[illegible]
ロ 平壤攻擊 陸軍中將野津道貫[illegible]平壤ヲ包圍攻擊ス。[illegible]
ハ 黃海ノ海戰 聯合艦隊司令長官海軍中將伊東祐亨北洋水師ト會戰シ、大ニ之ヲ破ル。

ニ [illegible]
二 [illegible]陸軍ハ遼東半島ヲ領有シ、威海衛、澎湖島ヲ略取ス。

三 結果 [illegible]
イ 朝鮮獨立ヲ確認[illegible]ロ 償金二億兩。ハ 遼東半島、臺灣、澎湖列島ヲ割讓セシム。ニ 沙市、重慶、蘇州、杭州ヲ開港セシム。
ホ 三國干涉 露、獨、佛三國ハ我國ノ永遠ニ遼東ヲ領有スルハ東洋ノ平和ニ害アリトシ、清國ニ還付セシム。[illegible]

四 臺灣[illegible]人[illegible]抗ス。能久親王平定ス。

五 條約改正 [illegible]明治四年以後、屢々交涉シテ成ラズ。二十七年八月、英國ト改正條約ヲ締結シ、遂ニ列國ト改正ヲナスニ至ル。明治三十二年七月以後

三 清國ハ講和條約ノ實施ヲナサズ。

四 北清事件

一 原因 清國排外思想ヲ普及ス。

二 結果 明治三十三年、我軍隊ハ北京ヲ陷レ、各國公使ヲ惨禍ノ中ニ救フ。

五 日英同盟 明治三十五年、

一 目的 清韓ノ保全、東洋平和ノ維持ヲ以テ目的トセリ。

二 攻守同盟トナシ、東亞ノ保全安寧ヲ謀ルヲ目的トセリ。

六 三十七八年之役

一 原因 露國ハ滿洲併呑ノ志アリ。北清事變ニ口實シテ大兵ヲ滿洲ニ入レ

要地ヲ略定ス。事變ノ後我ト撤兵條約ヲナスモ行ハズ、我ヲ威壓セントス。

二 經過 露國ノ租借地旅順ハ東洋ノ策源地タリ。初メ我艦隊ハ、仁川ニ露艦ヲ擊沈シ、次デ旅順口外ニ露艦ヲ砲擊ス。陸戰ハ鴨綠江、得利寺、蓋陽、奉天、沙河等、頗ル激戰ニシテ連戰連捷、遂ニ旅順口ヲ陷ル。又波的羅艦隊ヲ日本海ニ全滅シ、露國ヲシテ到底敵ハルヲ能ハザラシム。

三 結果 米國大統領ノ斡旋ヲ容レ「ポーツマス」ニ講和會議ヲ開ク。露國ハ清國ヨリ租借セシ權利ヲ讓與、樺太北緯五十度以南ノ割讓、沿海州漁業權ヲ得、東清鐵道寬城子以南ノ讓與等。

終

昭和[illegible]年[illegible]月[illegible]日印刷
昭和[illegible]年[illegible]月[illegible]日發行

（定價[illegible]拾錢）（郵稅[illegible]本共）

[illegible]

著者　[illegible]
東京[illegible]
發行者　[illegible]
東京[illegible]
印刷者　[illegible]
東京[illegible]
印刷所　光[illegible]社
東京[illegible]

電話本局[illegible]

發賣所　[illegible]書店

049625-000-2

特54-934

日本歴史

普通教育学会／編

M39

BEM-0328